

たかが問診、されど問診

村上総合病院にて1か月間、総合診療学の臨床実習をさせていただきました。採血、問診や診察、各科の検査や手術の見学、栗島実習など様々な実習を行うことができました。

この実習を通して特に印象に残っているのは問診の重要性です。これまで外来の見学は経験していましたが、実際の患者に自分で問診や診察をしたことはあまりありませんでした。そのため、診断は血液検査や画像検査等を行わないと結局わからず、問診はあくまで補助的なイメージでした。しかし自分で問診を試みて、そのイメージは全く変わりました。まず、主訴を聞き、鑑別診断を考えながら、問診で何を聴取すべきか考えます。優先順位を考えながら、問診を進め、同時に鑑別診断を追加、除外していきます。この実習で毎日問診を行ったことで、問診にはこれほどまでに知識や思考を必要とするのだと感じるとともに、正しい問診で多くの疾患を鑑別することができ、この先の検査や治療に役に立つのだと実感しました。

この実習で得た経験を活かし、これからも精進したいと思います。1か月お世話になりました村上総合病院の先生方、スタッフの方々に感謝申し上げます。